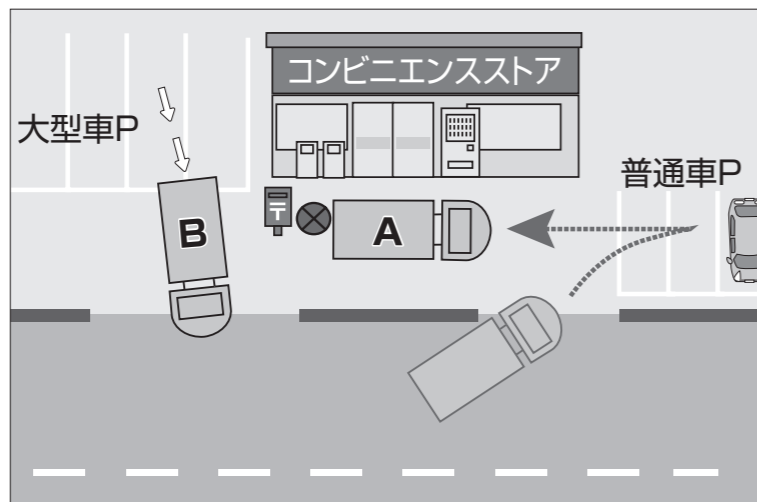


職場における交通安全指導

Part 102

コンビニエンスストアの駐車場でバックしたところ郵便ポストに衝突



■事故の概要

●発生状況

日時：平成20年10月某日 午後1時頃
天候：晴れ

●発生場所

コンビニエンスストアの駐車場内

●事故の当事者

運転者 A (大型トラック)：24歳、男性

●被害状況

A：後部バンパーのへこみ
郵便ポスト：破損

事故状況

Aは子どもの頃から貨物自動車のドライバーになるのが夢で、高校卒業後、地元の運送会社に就職し1年間先輩ドライバーと一緒に配送業務を経験し、その後1人で業務をこなすようになり仕事にもようやく慣れてきたところであった。

当日は、大型貨物自動車を運転し、工場から冷凍食品を積込み、10キロ離れた倉庫に搬送途中であった。気が付いたら午後1時を過ぎていたので、昼食の弁当を買うためコンビニエンスストアに立

ち寄った。このコンビニには駐車場の出入口が2箇所あり、Aは大型車用駐車場に近い手前側から入ろうとした。

しかし、駐車場からは、貨物自動車Bが道路に出ようとしていたので、ひとつ先の普通車用駐車場のある店舗に近い出入口から入り、そこからバックで大型車用駐車場に移動しようとした。

駐車場に入り、右のサイドミラーでBが道路に出て行くのを確認してからバックを始めたところ、左後方に設置された郵便ポストに衝突した。

Aはコンビニの普通車用駐車場に入る際、車や人がいないことを確認していたので、安心してしまい郵便ポストがあるのを見落としていた。バックする際も右サイドミラーでは確認したが、再度十分な後方確認をしないで安易にバックを開始したため、今回の事故となった。右のサイドミラーでは後方確認をしていたが、左サイドミラーでも後方確認をすべきであった。

また、本来の大型車用駐車場側から出ようとしていたBの退出を待って、正規の出入口から入場していれば、事故は未然に防げたことはいふまでもありません。

安全指導

① 構内事故（後退事故）の発生状況

区分 損壊物	構内事故 発生件数	後退事故	
		件数	構成率
車両	290件	175件	60.3%
建物	76件	41件	53.9%
構内施設	39件	18件	46.2%
門柱	29件	12件	41.4%
シャッター	32件	16件	50.0%
フェンス・塀	22件	12件	54.5%
その他	68件	28件	41.2%
合計	556件	302件	54.3%

上の表は、平成26年度当組合での構内（後退）事故発生状況です。構内事故は556件と、対物事故全体の約34%を占めています。

また、構内で起きた事故の約半数となる302件が後退（バック）によるもので、比率は54.3%と非常に高いことが観えます。構内でバックする際は、十分注意が必要です。

構内は、馴染みのある場所が多く、油断を引き起こし易い、また進入時に全体の状況を把握したとしても、油断からくる見落としなどにより今回のようにポストに衝突する場合があります。

進入時に車や人の往来がないか十分チェックしたとしても、バックする時点では状況が変わり、安易にバックすると車や人などに衝突する場合も考えられます。バックする際は、面倒でも、車を降りてトラックの後方に回り安全の確認を目視で行いましょう。また、バックギアに入れてブザーによる警戒音で周囲の人に注意喚起をし、事故を未然に防ぐのも良いでしょう。

またバックする際は、人が歩く位のスピードを心掛け、不安を少しでも感じたらすぐに停車ができるよう、十分注意を払い走行する必要があります。

② 危険を予測した運転

構内は、走行速度が遅いことや他車の大半が停まった状態にあること、慣れた場所など、通常の走行より緊張感が薄れがちとなり、そのため、事

故が起こりやすい場所でもあります。

構内事故は、建造物への衝突事故以外にもコンビニエンスストアやレストランなどの配送先では、子どもや高齢者なども利用しているため、気を抜くと重大な人身事故に繋がる恐れがあります。慎重に運転することが必要です。

目を配るところが多く、駐車スペースを探すことに気を取られたり、駐車場から出て行く車に気を取られるなど、一点のことに気持ちが集中し、他の事への注意が散漫となり事故になるケースもあります。

また、最近はバックモニターが付いているトラックも多くなり、便利にはなりましたが、モニターに頼りすぎて目視を怠り、モニターに映らない上方の障害物など、確認を疎かにしたままバックしてシャッターや建物の軒、看板等に衝突する事故も多発しています。

油断や慣れからくる注意不足による事故も多いので十分注意しましょう。

③ 事故防止のポイント

1. 急いでいると事故になり易いので、忙しい時ほどゆっくりと、構内では徐行運転を心掛け、バックの際は更にゆっくりと人が歩く程度の速度で走行する。
2. 構内の状況は刻々と変化するため、絶えず周囲の状況を確認、走行車両、歩行者の有無、看板など障害物となる構造物（特に上方）などに注意を払う。
3. バックする際は、ミラーやバックモニターだけに頼ることなく、車から降りて後方確認をする。また、後方の状況変化を考慮し、ギヤをバックに入れてすぐには動かさず一呼吸おこなうなどして、警戒音を3、4回鳴らしてからバックする。
4. 構内への出入りは、できる限り前進で行う。止むを得ず後退する場合は、最小限とする。
5. 同乗者がいる場合は、誘導を依頼する。